

白山ふるさと文学賞

第五回 白山市ジュニア文芸賞 受賞作品

【暁烏敏部門】〈作文「母へのおもい」〉

中高校生の部 優秀賞

2人の母へ

鶴来中学校二年

直田 なおだ

潤弥 じゅんや

僕には、生んでくれた母親と、父さんが再婚してできた母親がいる。みんなには1人しかいない母親かもしれないけど、僕には2人いる。1人目の母親（僕が小学2年生の時に別れた）には、幼い頃から迷惑をかけていて、とつてもお世話になった。今もたまに食事に行ったりなどして、会っている。2人目の現在も一緒にいる母親は、とにかく料理が上手でとてもおいしい。毎日一回は、「めっちゃおいしい。」と言っている。

現在、僕には3人の弟と1人の姉がいる。つまり、5人兄弟というわけだ。一番下の弟（0歳）と姉（高3）は2人目の母親から生まれ、僕と2人の弟は1人目の母親から生まれた。父さんが離婚した当時は、それをまだ理解していなくて、

「ママがどこかに旅行に行く」と、その程度にしか思っていなかったが、月日が流れていくにつれ、悲しみが増す一方、長男である自分は、その事を受け入れなければならぬという心を持っていった。そして、1年と半年が過ぎた頃、父さんに新しい交際相手ができたと聞いた。ここでほとんどの人は、驚きや疑問があるが、僕は正直、新しい母親への期待を胸いっぱいにもっていた。今では、もう違和感がなく、家事への感謝を思う程にもなった。それだけではない。他にも、一緒になにかをしたり、話したりなど、最初はやや敬語気味だったものが、今では、父さんの再婚相手という感情はうすれ、「僕らの母親」

と、思う感情が9割以上をしめている。

2人の母親には、とても感謝しています。でも、父親の再婚には期待はあったが、それ以上に不安がとてたくさんありました。そして、多分今までの中で一番大きい壁に当たったのが、

「2人の母親の区別はどうしよう」

でした。確かに生んでくれたのは1人目の母親ですが、これまでの4年

間育ててくれたのは今の母親です。どちらも母親と思っているのですが、それはいいのですが、呼ぶときには当時からこうしています。1人目の母親を、「ママ」、2人目の母親は、「お母さん」と呼ぶように常に意識してきました。

ママ、僕を生んでくれてありがとう。親孝行はできないかもしれないけど、まだ交流は無いというわけではないので、これからもずっと僕のママでいてください。本当に感謝しています。

お母さん、いつもとてもおいしいご飯ありがとう。毎日部活から帰ってきて、疲れている時に食べる温かい料理は、どんな料理よりも美味しいよ。あまり、こういう事は恥ずかしいけど、これからもずっと僕らのお母さんでいてください。

2人の母親は、どちらも誰がなんとやおうと僕の母親です。離婚したから母親じゃない、血が繋がっていないから母親じゃないなんて、他の人は言うかもしれないけど、紛れもなく2人とも僕の母親です。

いつか大人になったら、ママの事を忘れてしまってもいい。でも、それをしないためにも、2人の母には同じくらいに感謝と愛情をもっていきます。僕にとつては、2人の母がいたからこそ、自分の人生の大事な物になったんだと思う。だから、僕は2人の母の息子であり、また僕にとつてはかけがえのない存在だと思ふ。再婚の件での不安はまだ残って覚えているけど、それ以上に今の僕は、こういう作文を通して、2人の母への思いを、再度考え直すことができている。こういう経験が未来へと活かし、またこれからの自分への強い心を育み、そして、2人の母への感謝をしっかり残していく。そういうことをしていたらきっと、もつと2人の母への思いは今以上に届くと思ふ。

もう一度言うけど、2人の母へ、

「今まで本当にありがとう、そしてこれからもよろしく。ずっとずっと大好きです。」